

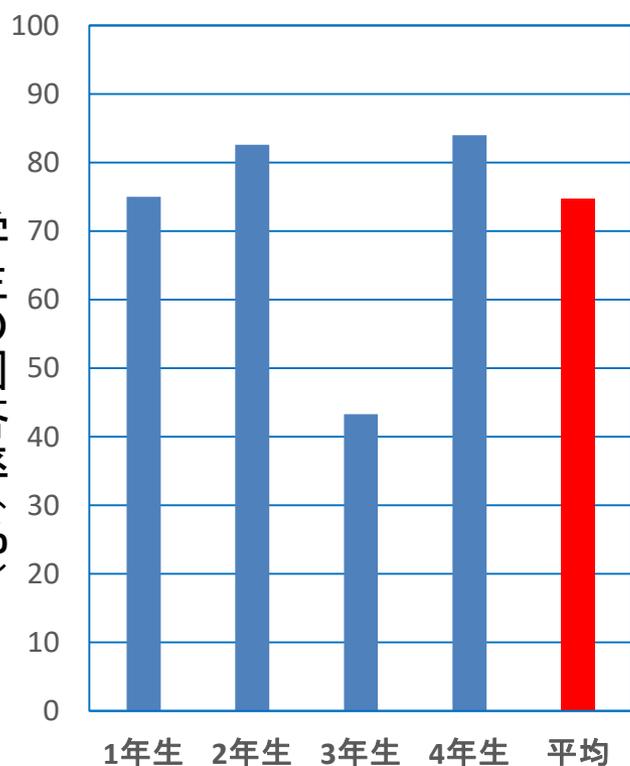
2020年度学生アンケート

調査期間(2021年3月~4月)

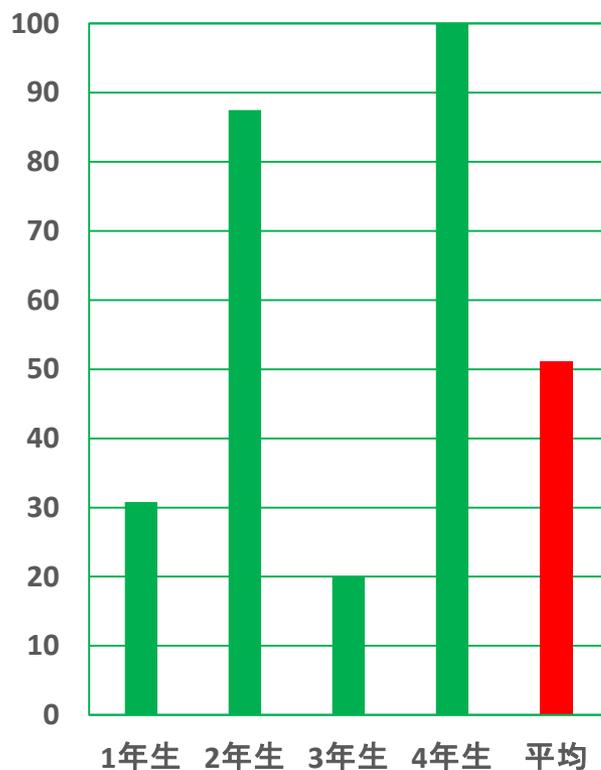
北都保健福祉専門学校

Q1. 何%の学生がアンケートに回答したか

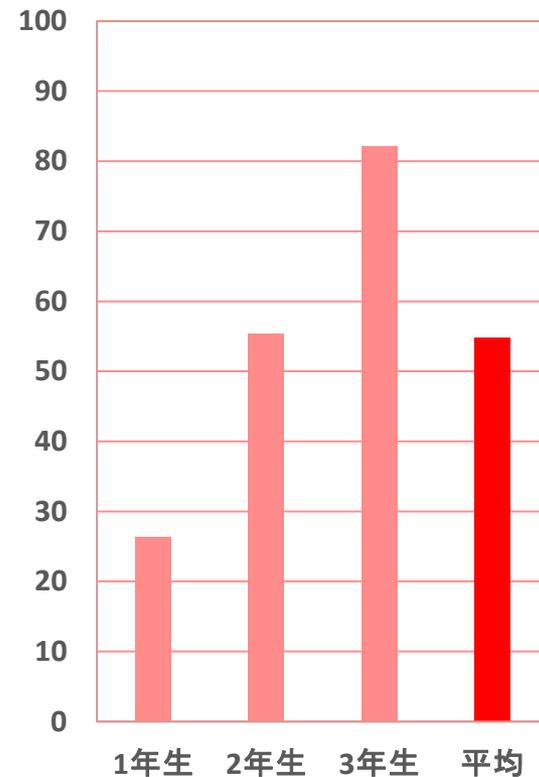
理学療法学科 (PT)



作業療法学科 (OT)



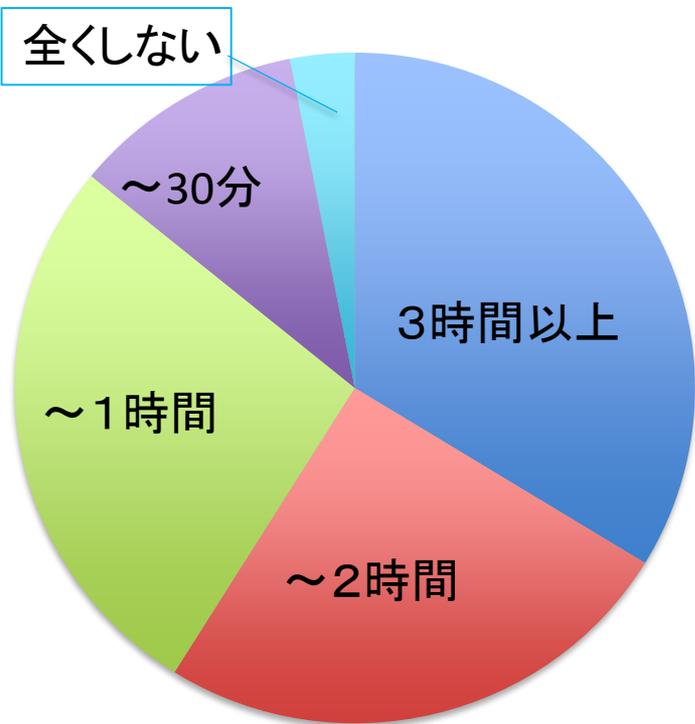
看護学科 (Ns)



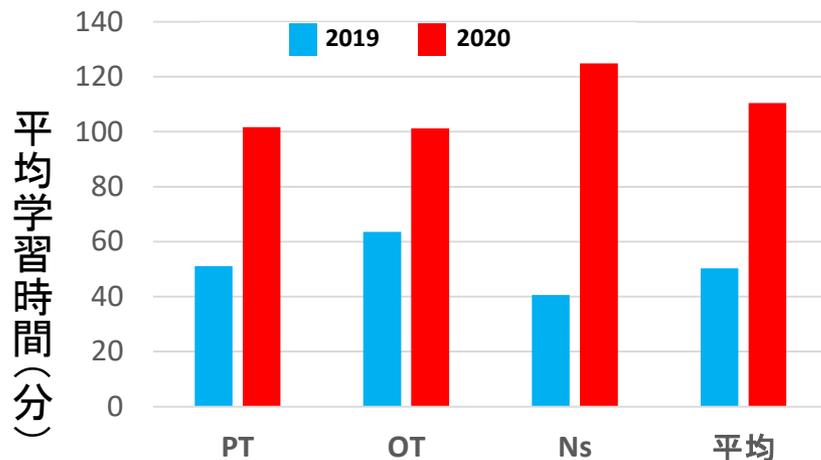
理学療法学科の平均回答率は高く、作業や看護学科では学年によるバラツキが目立つ回答率であった。興味深いことには、どの学科でも卒業を目前とした最終学年の回答率が高いという共通性があった。

Q2. 1日の自宅学習時間はどのくらいか

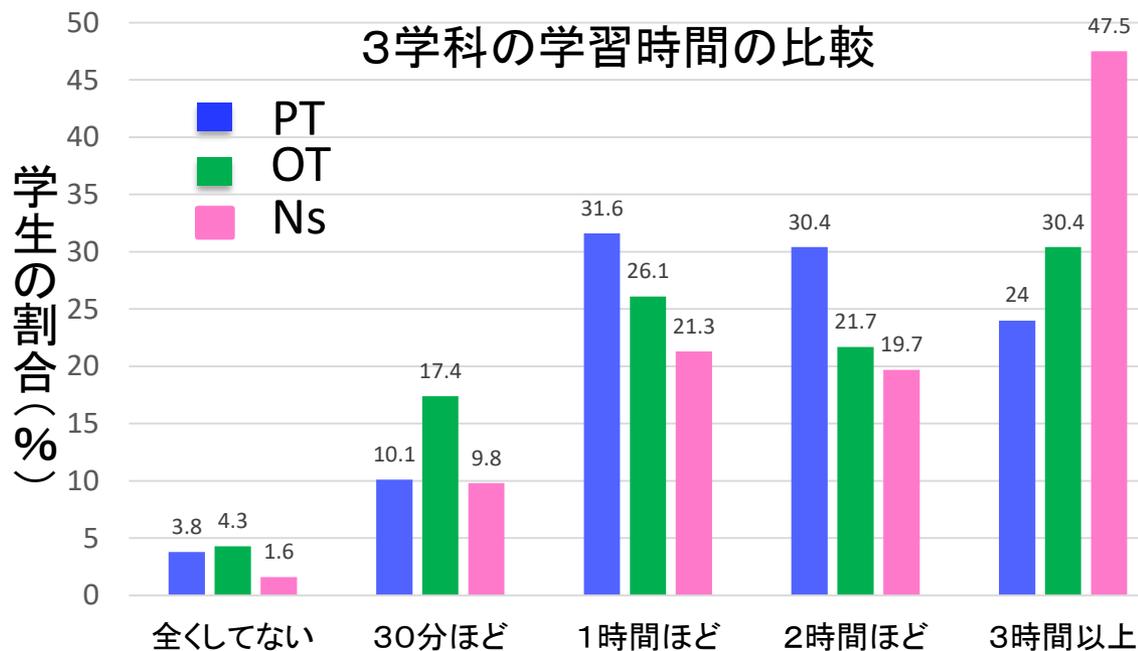
3学科平均での割合



2019と2020の比較

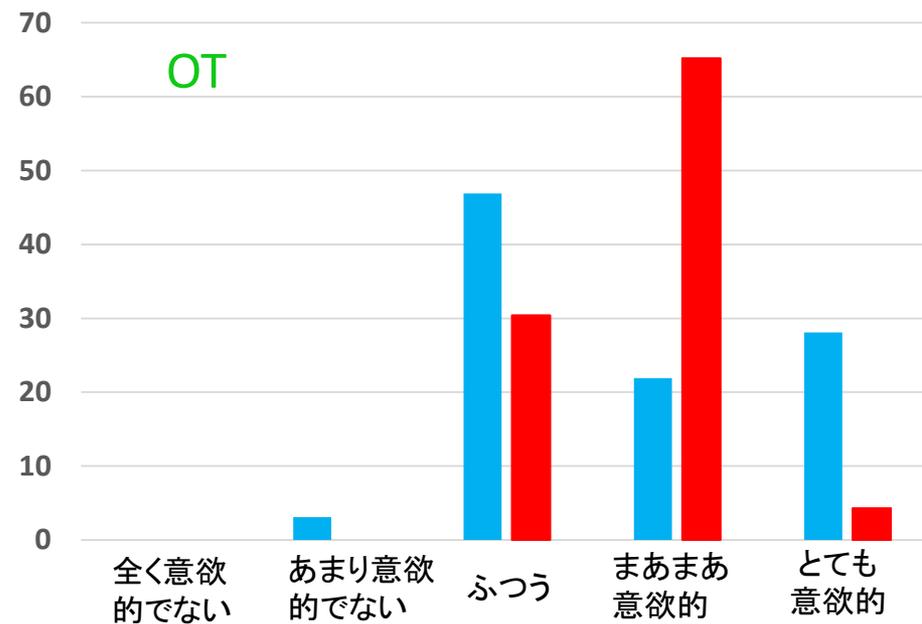
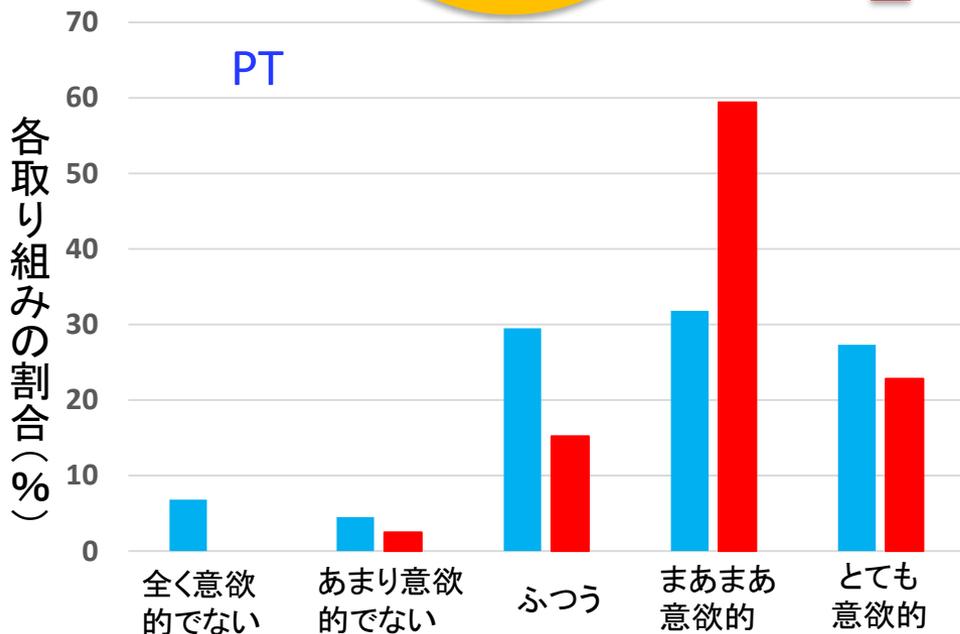
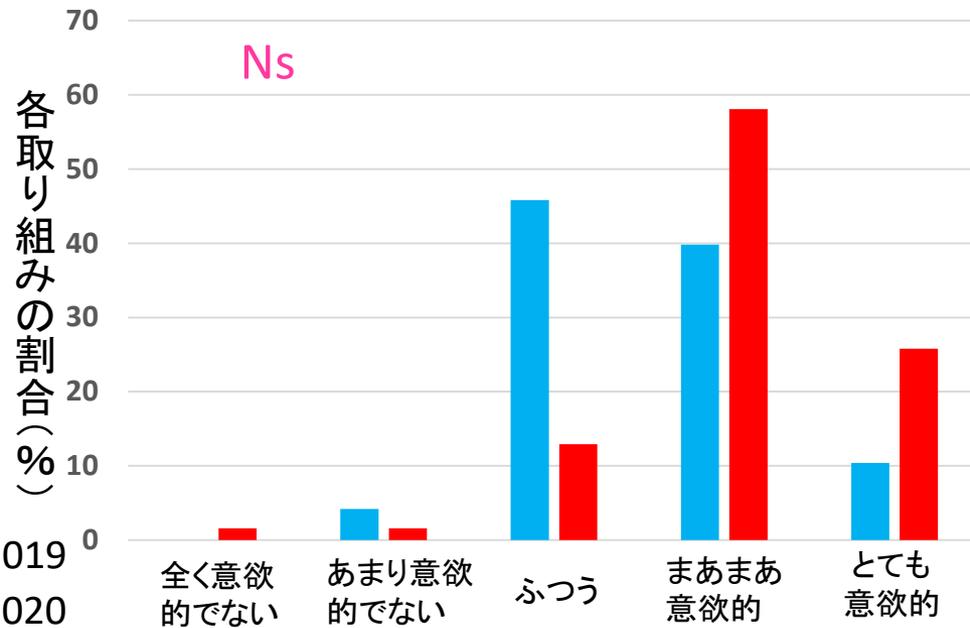
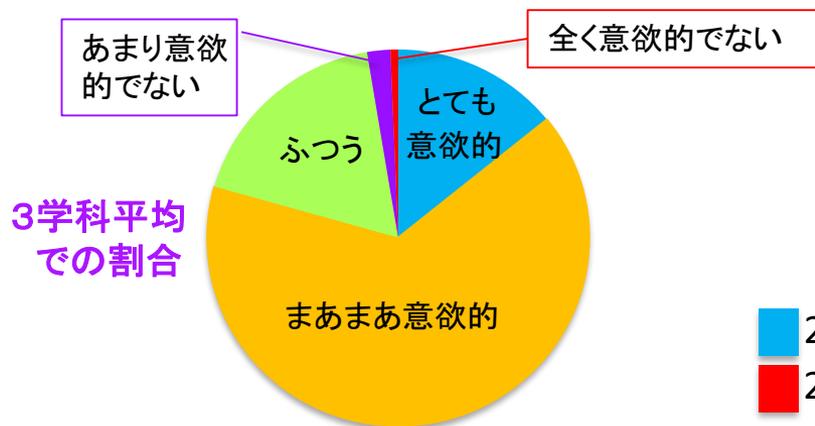


3学科の学習時間の比較



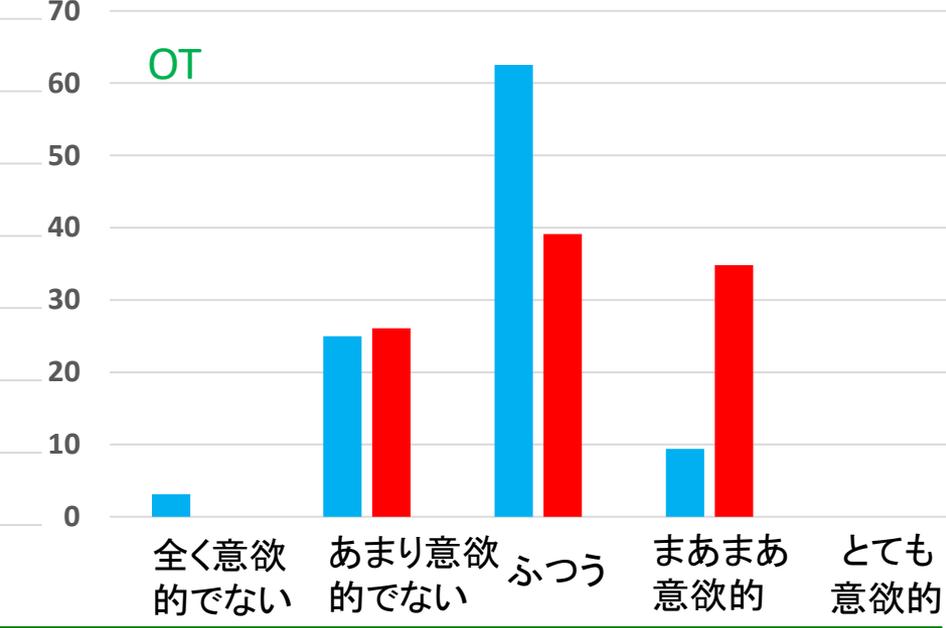
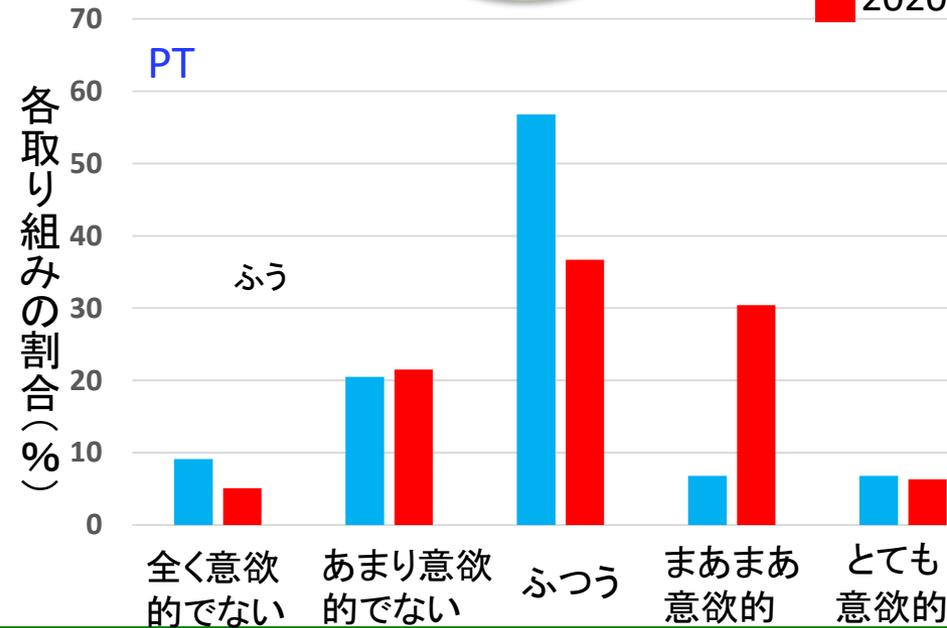
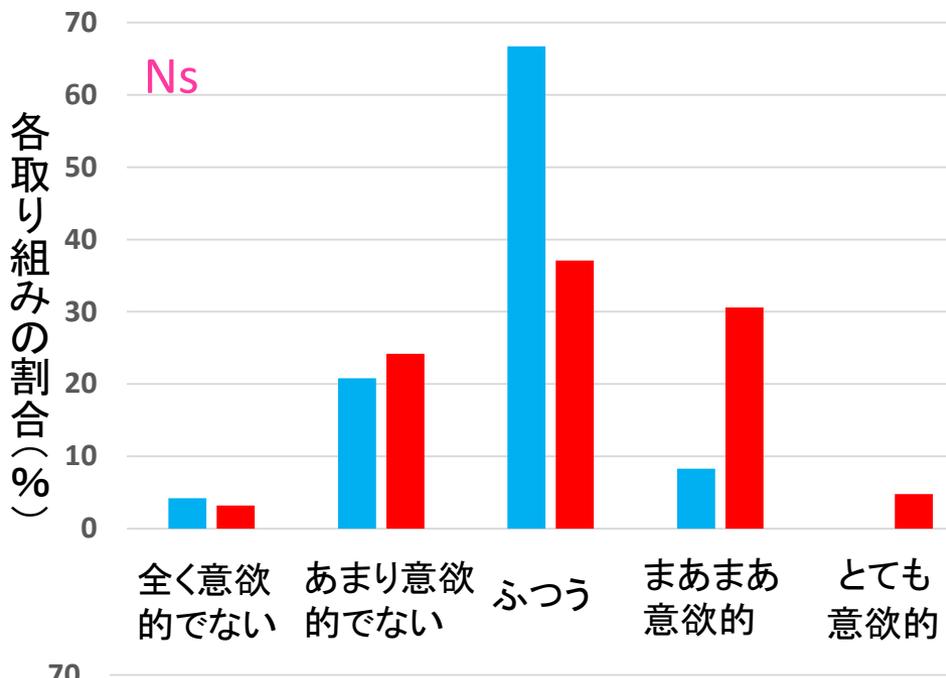
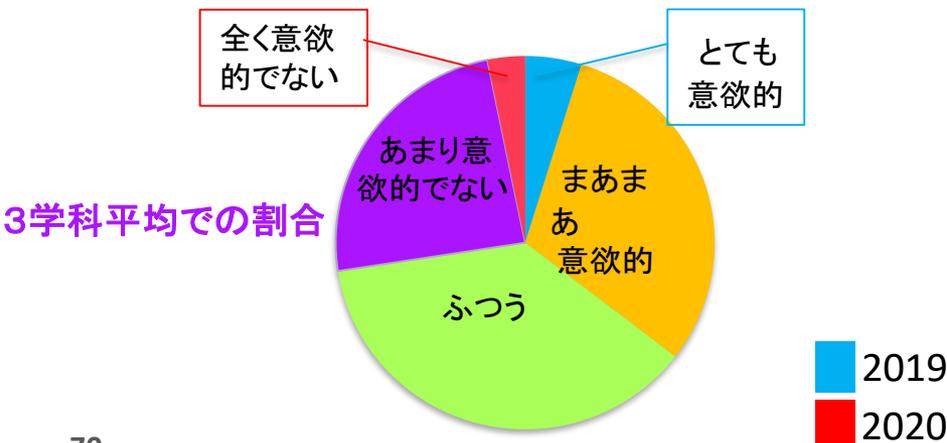
2019年と比較すると、2020年度の自宅学習時間は2~3倍ほどに増加していた。この傾向はコロナ禍の外出できない状況からある程度は予想されたことであるが、学生の皆さんが真面目に学習課題と取り組んできた結果といえよう。

Q3. 興味ある授業に どう取り組んでいるか



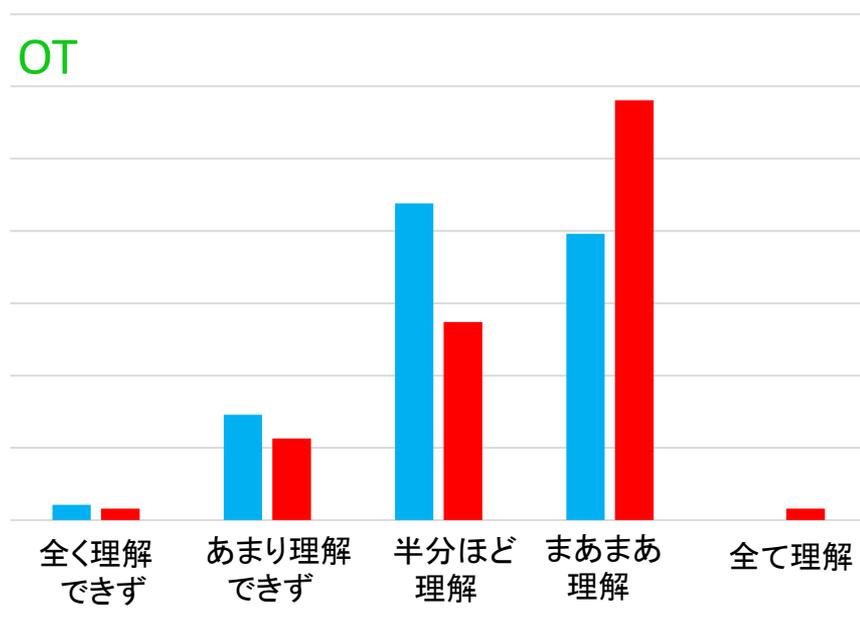
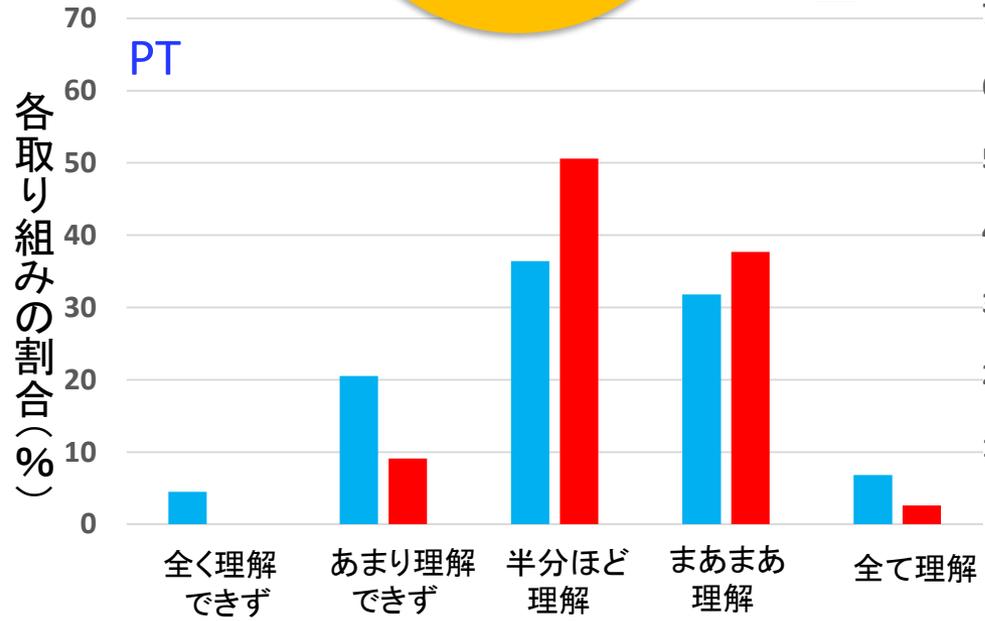
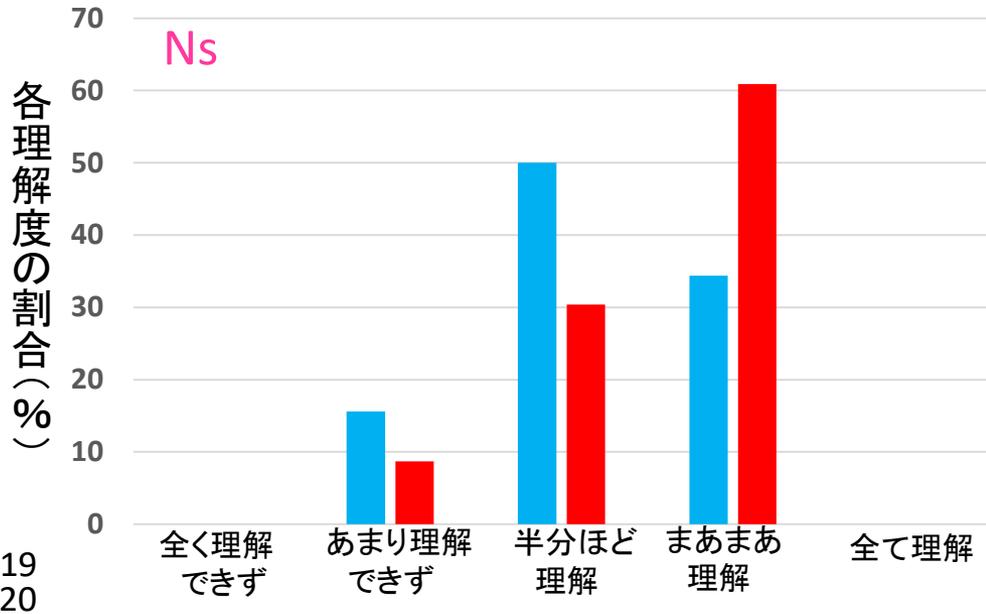
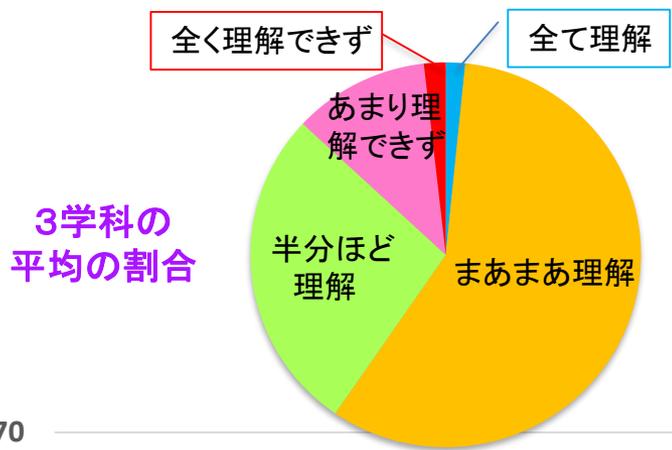
「とても」や「まあまあ」意欲的と回答した学生は3学科平均で73%ほどであり、コロナ禍でもオンライン授業や対面授業に積極的に取り組んでいた結果であると思われる。

Q4. 興味のない授業に どう取り組んでいるか



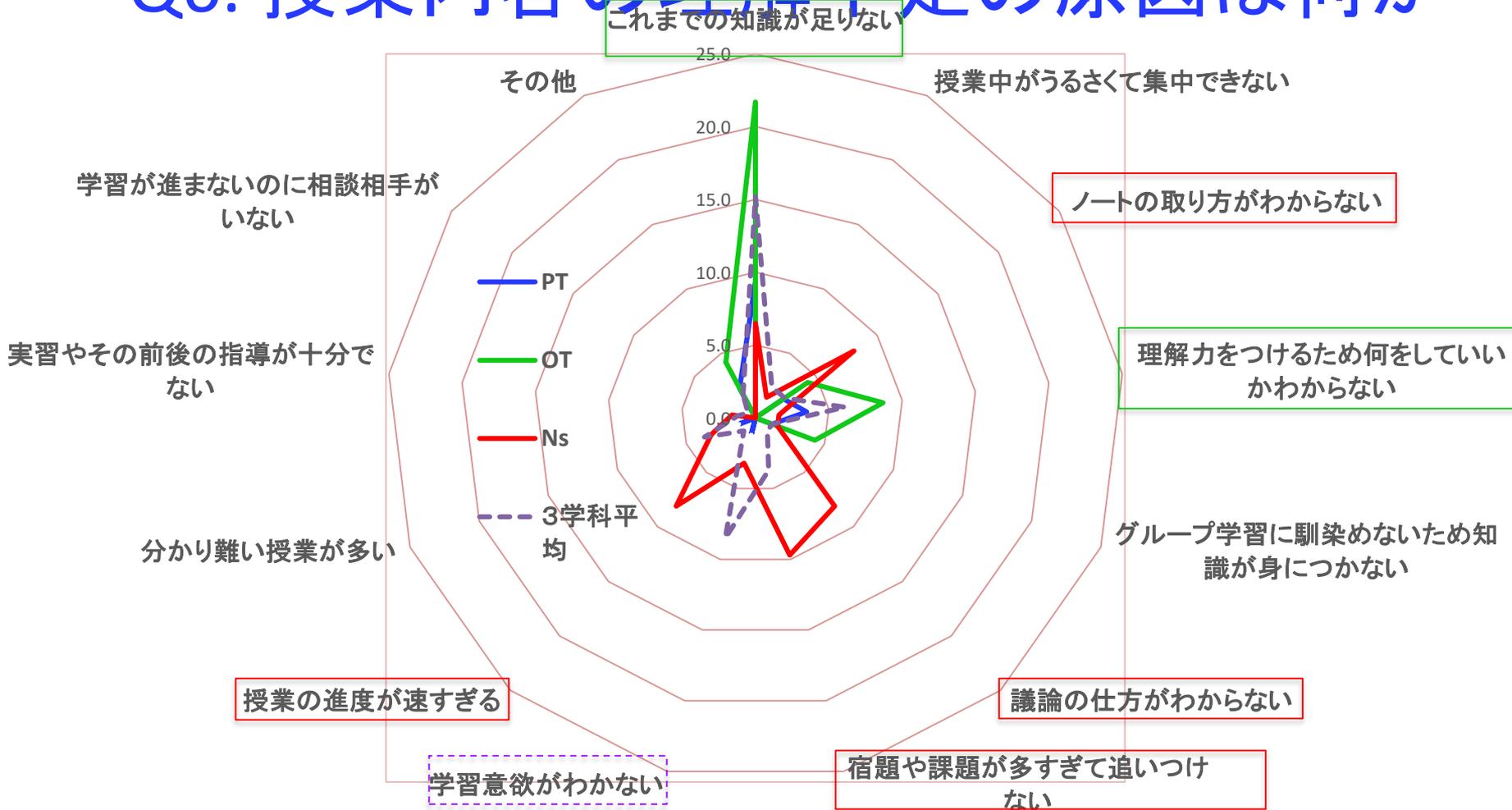
「とても」や「まあまあ」意欲的と回答した学生は3学科で27%ほどであり、興味のある授業と比べると消極的であった。しかし、2019年との比較では、どの学科の学生も授業への取り組みに積極性が認められた。

Q5. 授業内容の理解度はどのくらいか



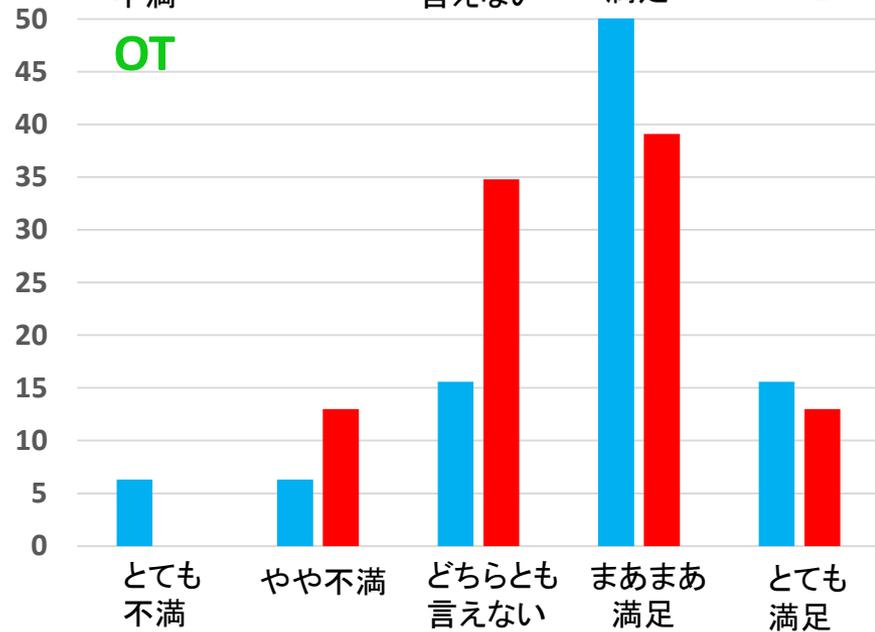
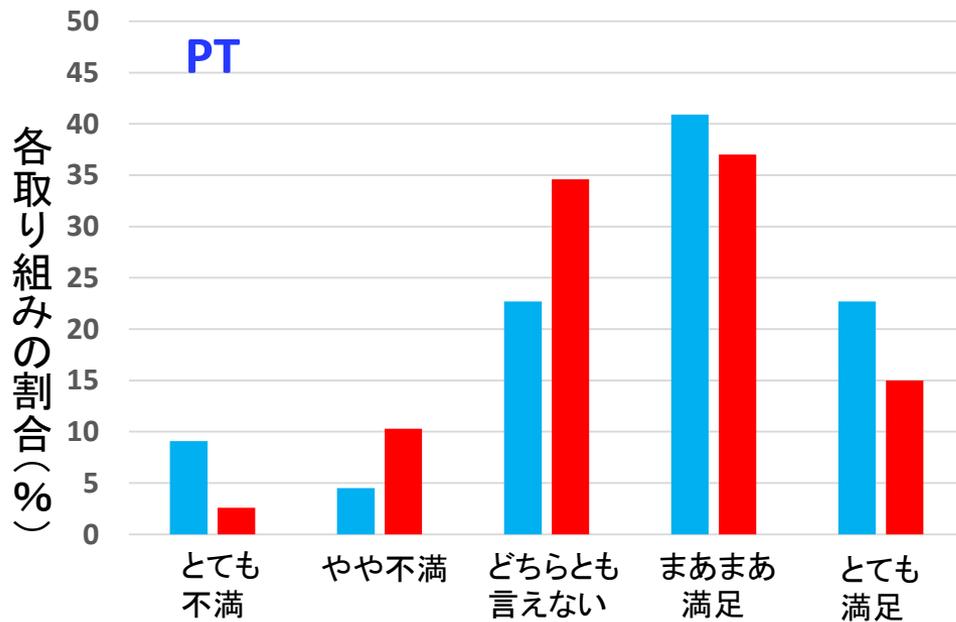
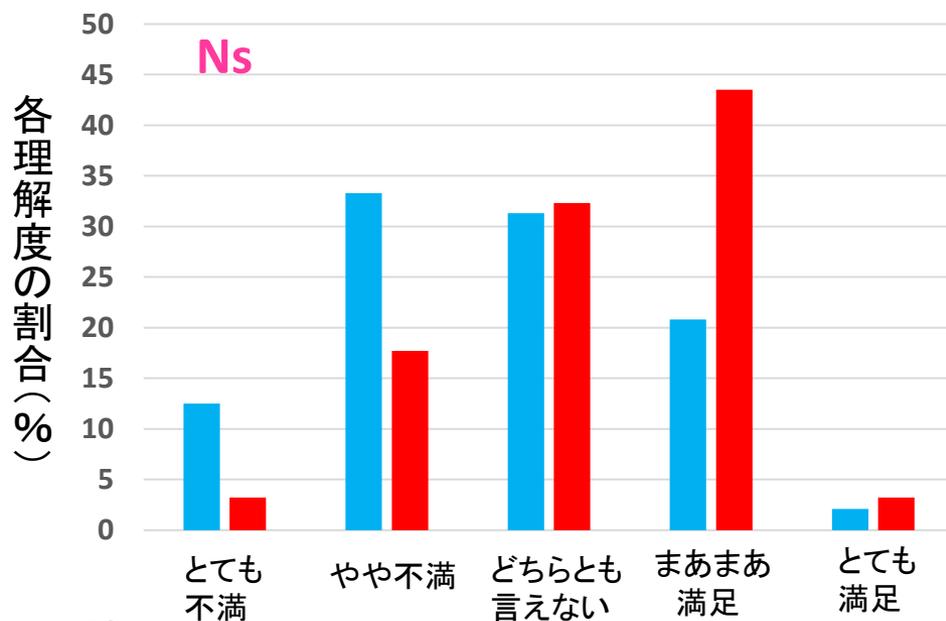
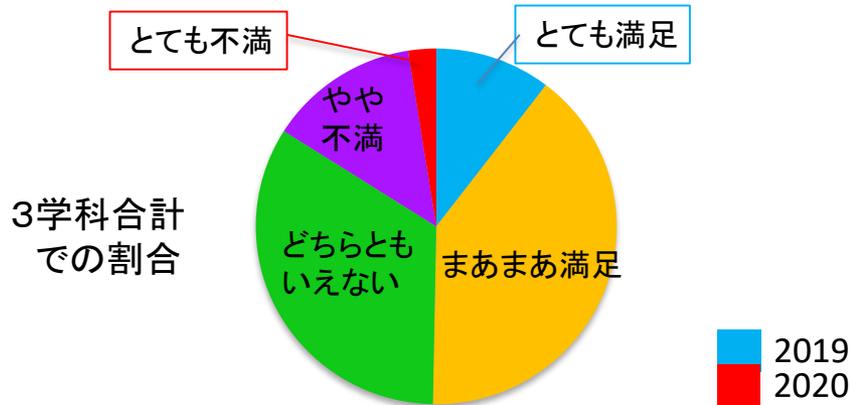
「すべて」や「まあまあ」理解できると回答した学生は3学科で57%ほどであり、「半分ほど」理解できるまで含めると、87%ほどとなる。「すべて」や「まあまあ」理解できる割合を高めるために、よりわかりやすい授業を展開することが求められる。

Q6. 授業内容の理解不足の原因は何か



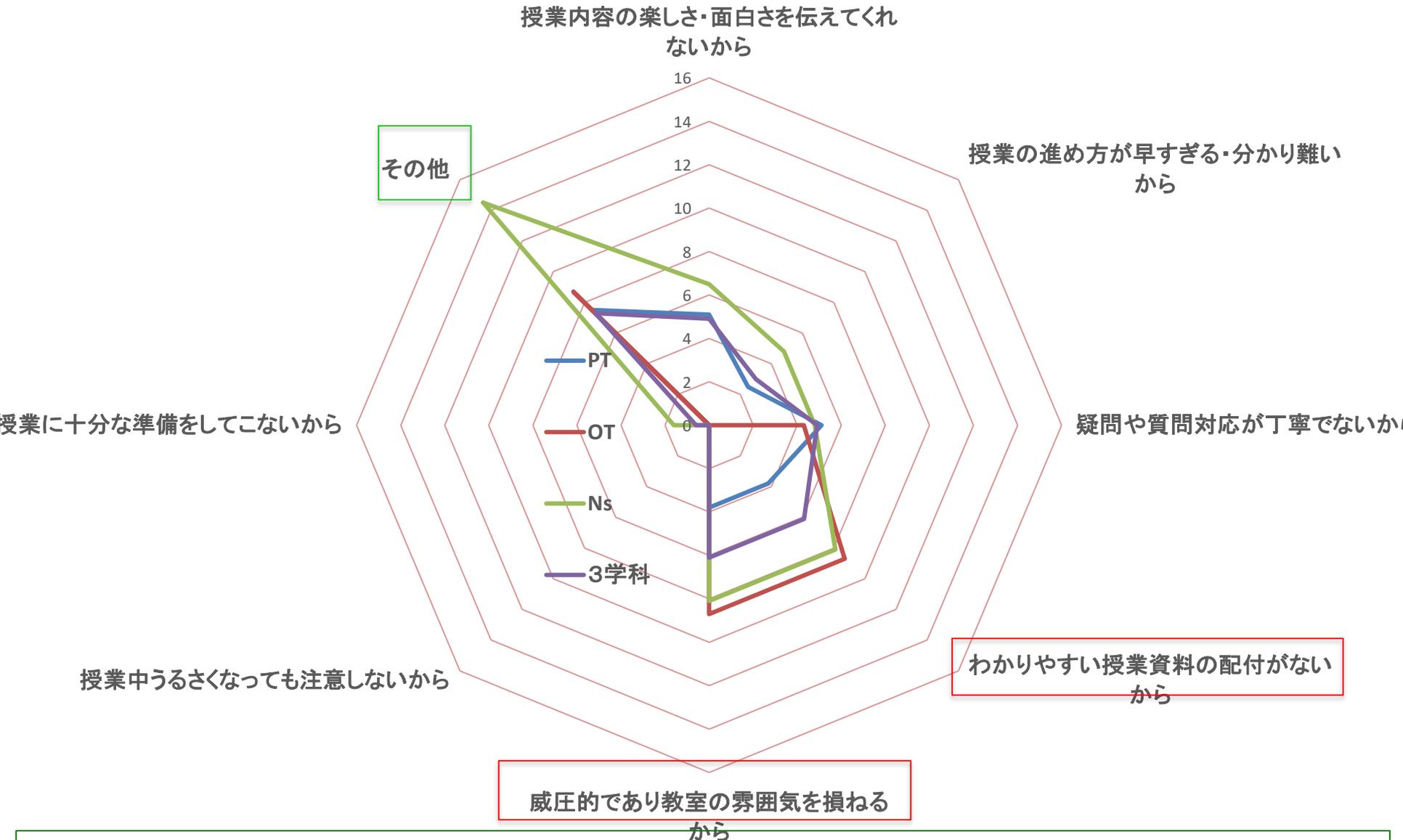
理解不足を感じる作業療法の学生にとっては、「これまでの知識が足りない」「理解力を高めるために何をやっていいかわからない」などが主な原因と考えている。また、看護学科では「課題宿題が多い」「議論の仕方がわからない」「ノートを取り方がわからない」「授業が早すぎる」などと感じている学生が目立つ。

Q7. 教員に対する満足度はどうか



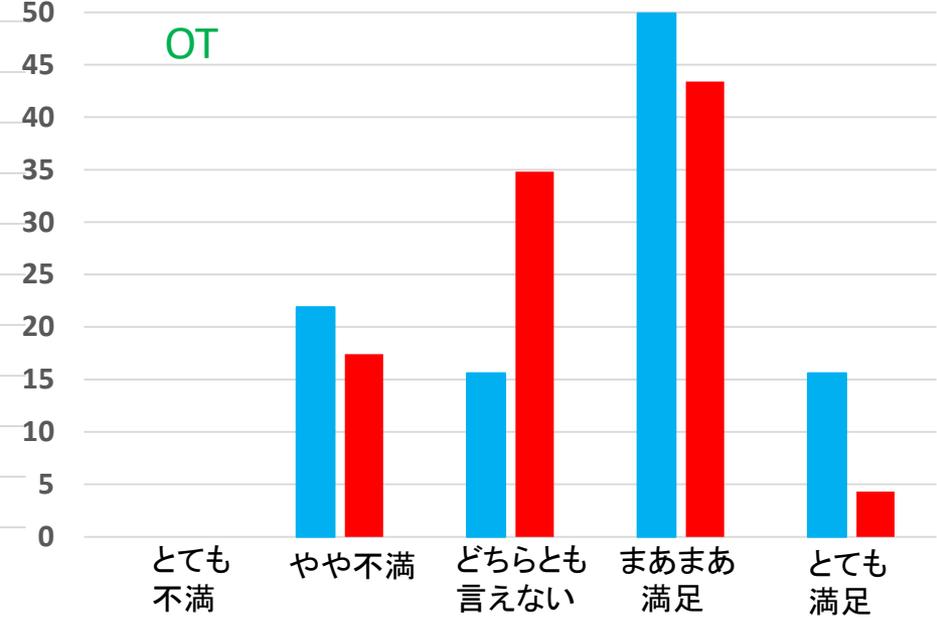
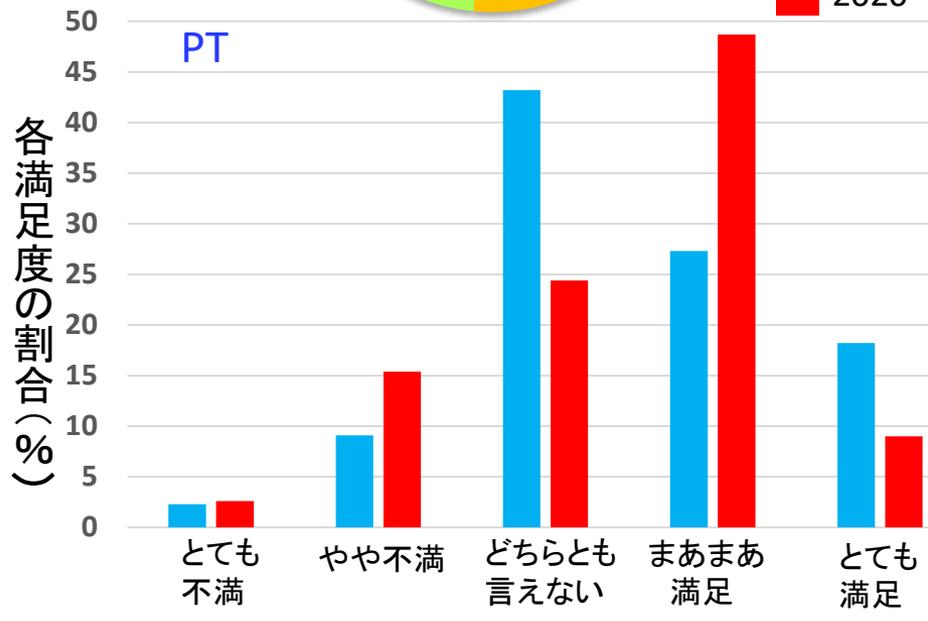
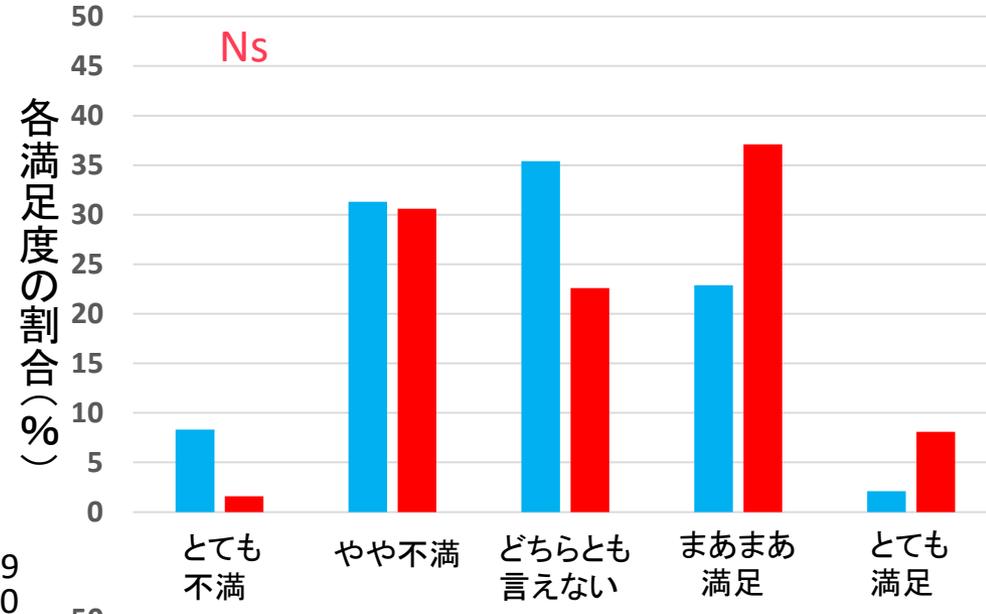
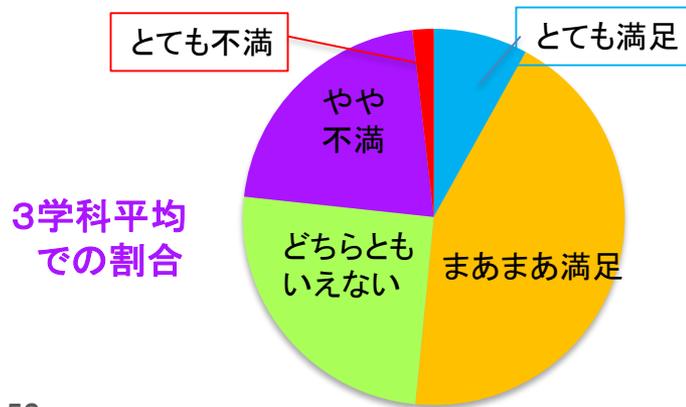
2019年と比べ看護学科の学生満足度が上昇し、理学や作業療法学科の満足度と同等になったことは大きな進歩と考えられる。このことが学生の学習に対するモチベーション向上に関わっていると考えられる。

Q8. 教員に不満を持つ学生の思いはどうか



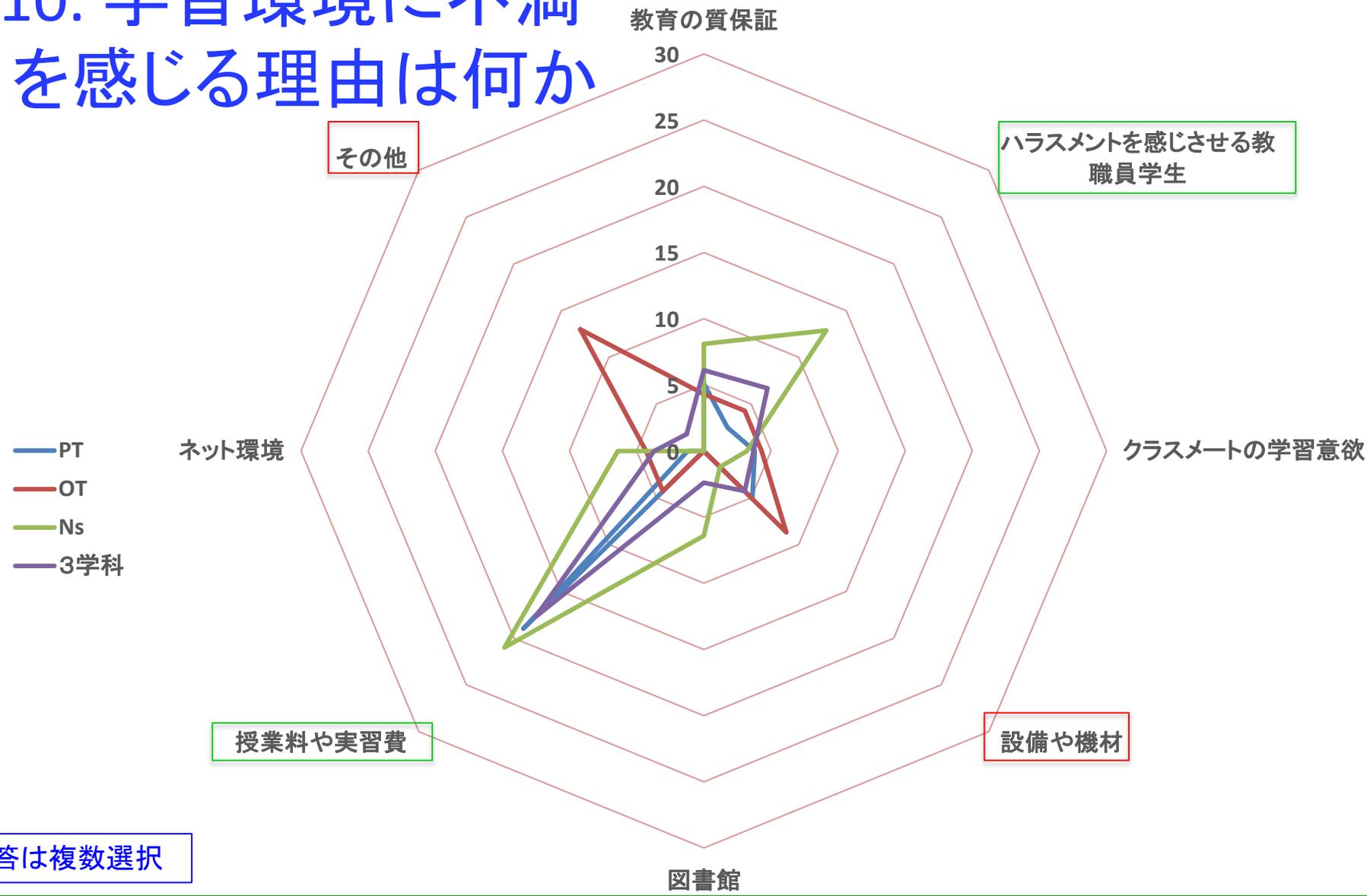
「わかりやすい資料配布」「威圧的な教室の雰囲気」などが不満の原因になっている。「その他」には、これら主要因に加えて「時間割を早く決めて欲しい」という意見もあった。

Q9. 本校の学習環境に満足しているか



看護学科や理学療法学科の学生満足度は 2019年度に比べ高くなった。作業ではそれほど大きな変化はなかったが、ようやく3学科の学生満足度が似かよってきたと考えられる。

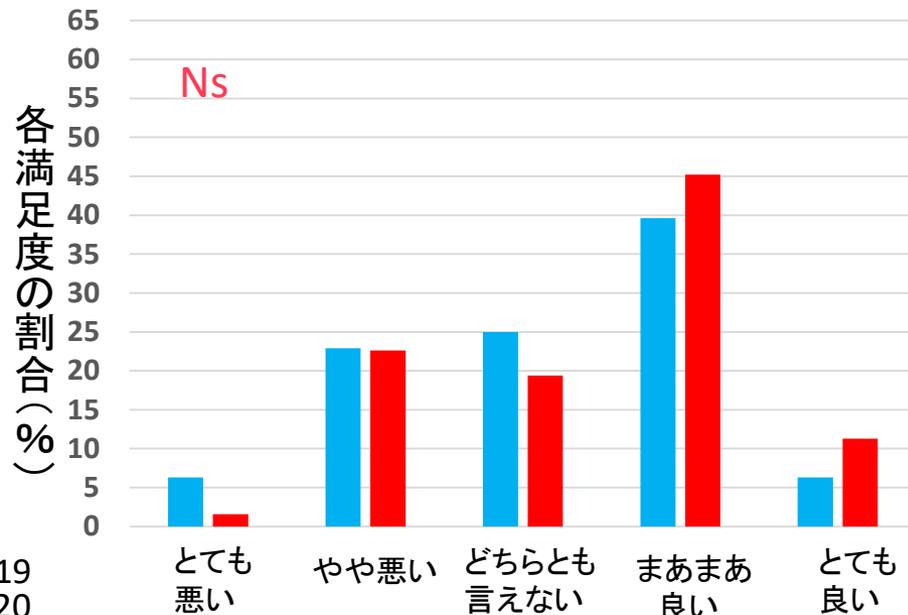
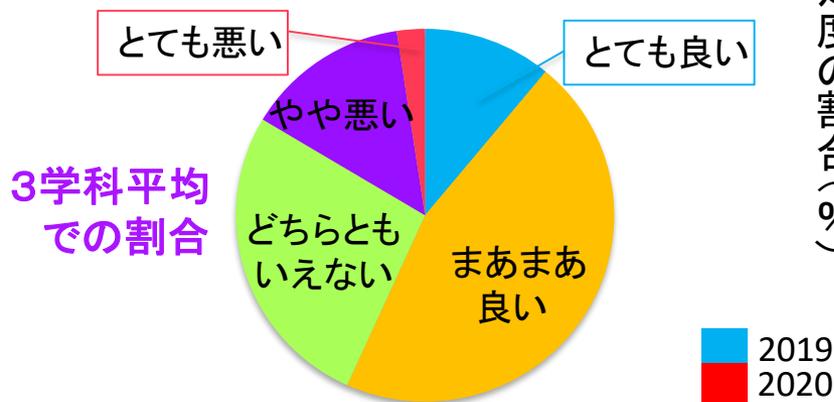
Q 10. 学習環境に不満を感じる理由は何か



回答は複数選択

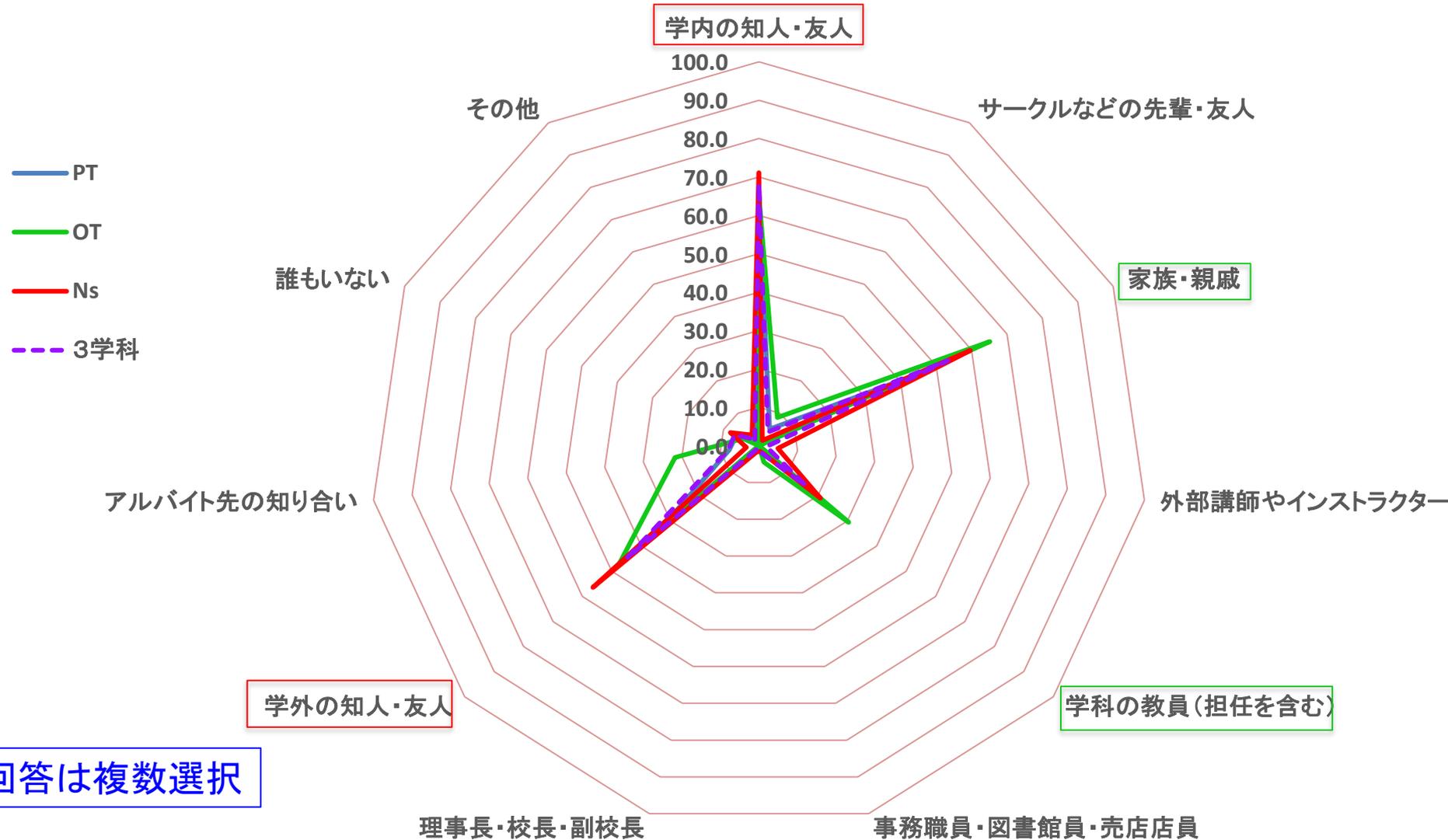
不満を感じる学生の主な理由として「学校への納付金の金額」、「設備機材の充実度」、「ハラスメントを感じさせる教職員・学生」などが挙がっていた。ただ、「その他」には、「夏季や冬季の室温管理」などに不満があるという意見もあった。

Q11. 心理的に安定した 良い学生生活か



2019年度と比較すると、2020年度はコロナ禍と言えども大きく悪化しているわけではなかった。むしろ、全体としてはそれほど大きく変化していなかったと考えられる。

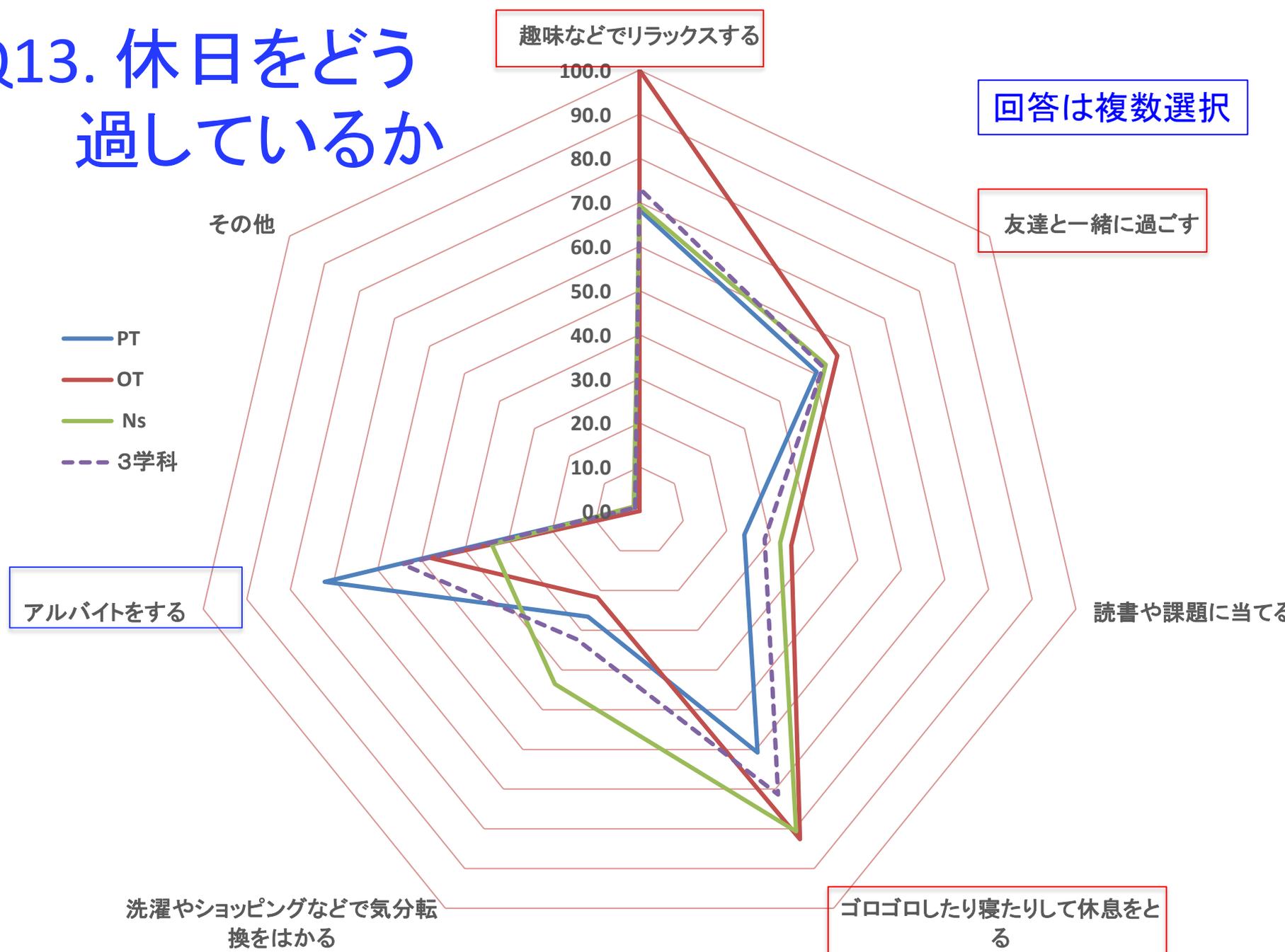
Q12. 精神的なサポートをしてくれるのは誰か



回答は複数選択

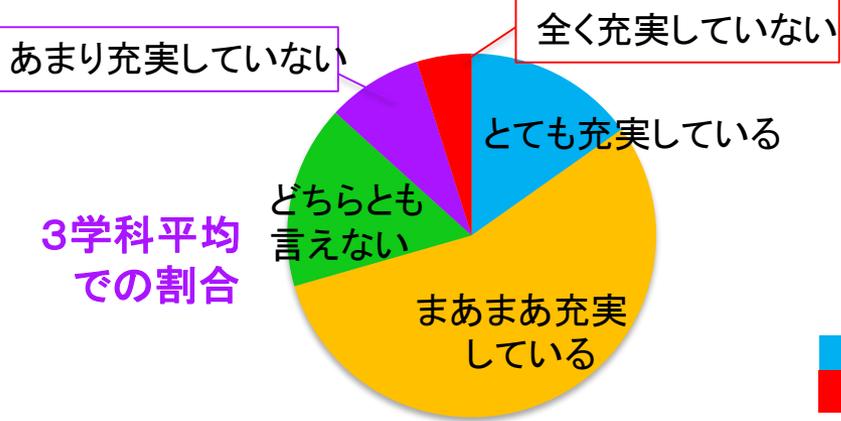
3学科の学生共に「学内の知人・友人」、「家族・親戚」、「学外の知人・友人」及び「学科の教員」らに相談するケースが多く、概ね学科間での差異はなかった。

Q13. 休日をどう 過しているか



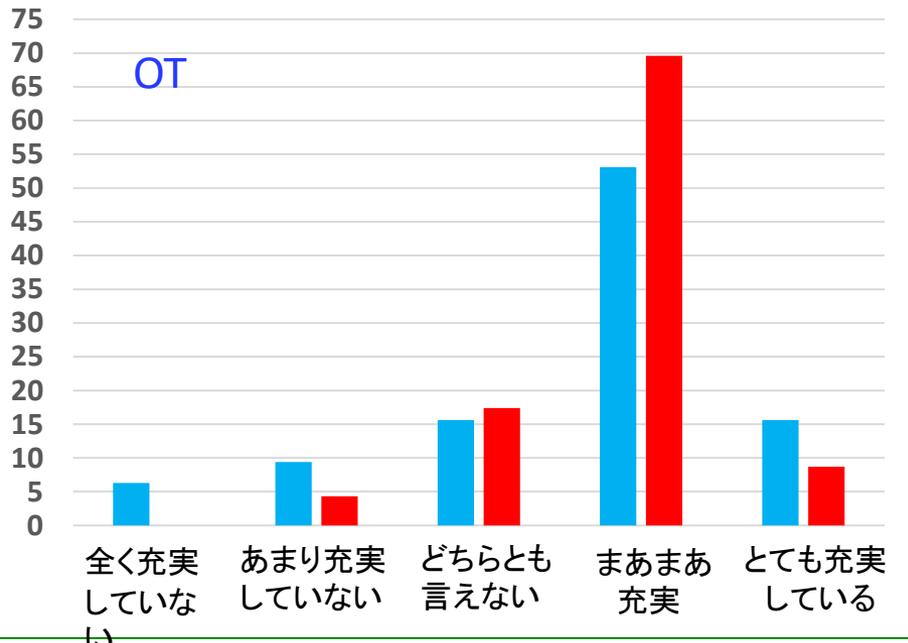
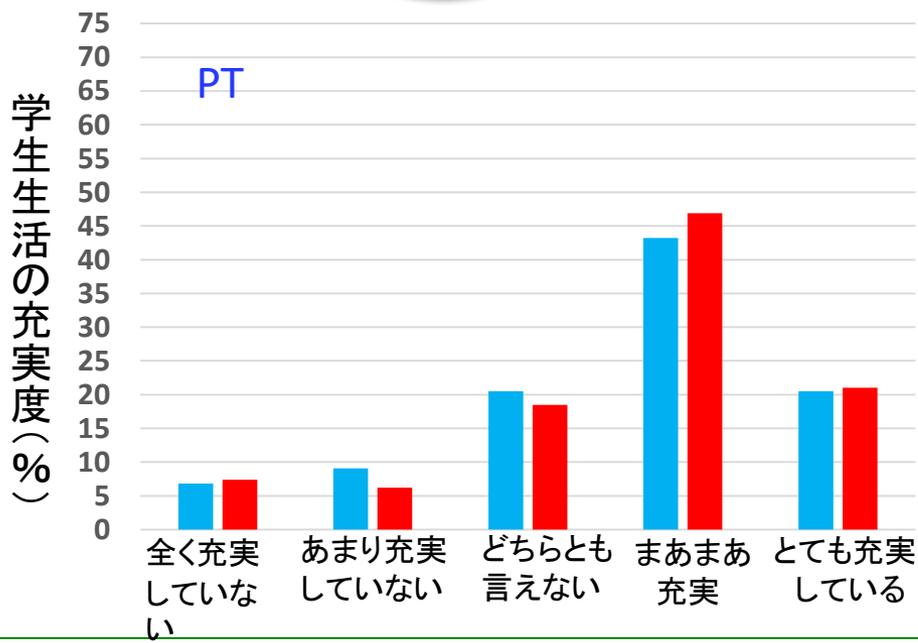
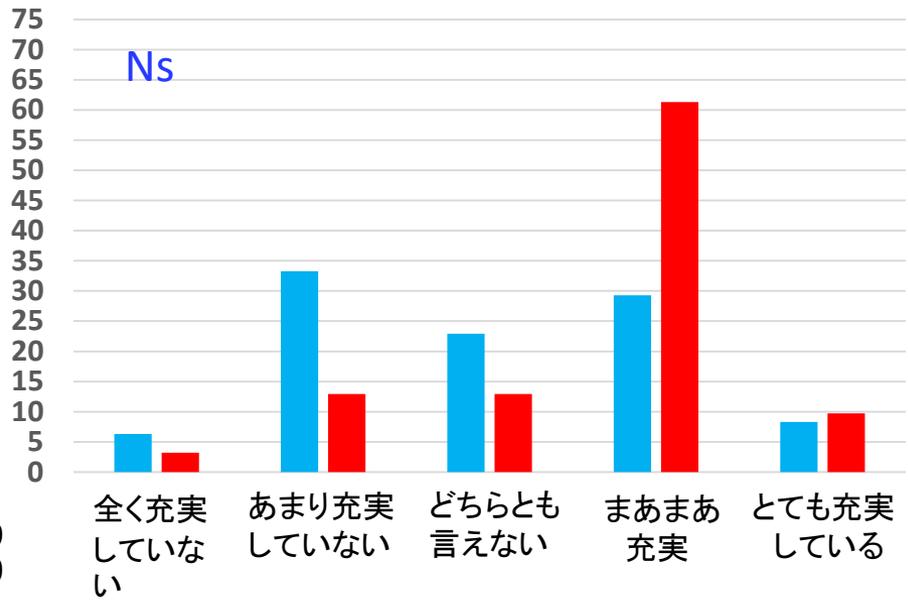
休日の過ごし方には学科間の差異がなかったが、アルバイトする学生の3学科平均は50%ほどであった。

Q14. 学生生活は充実しているか



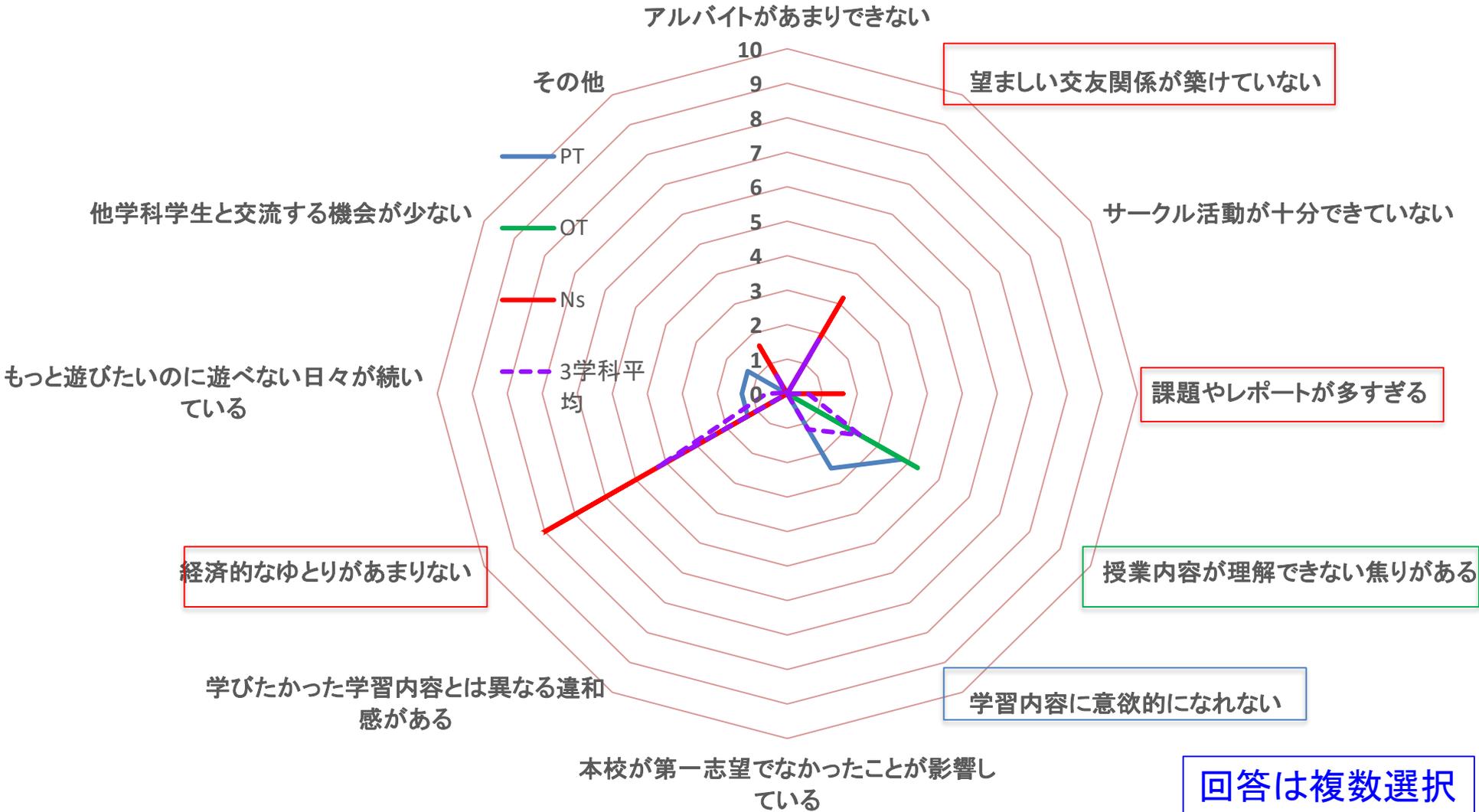
学生生活の充実度 (%)

2019 (青)
2020 (赤)



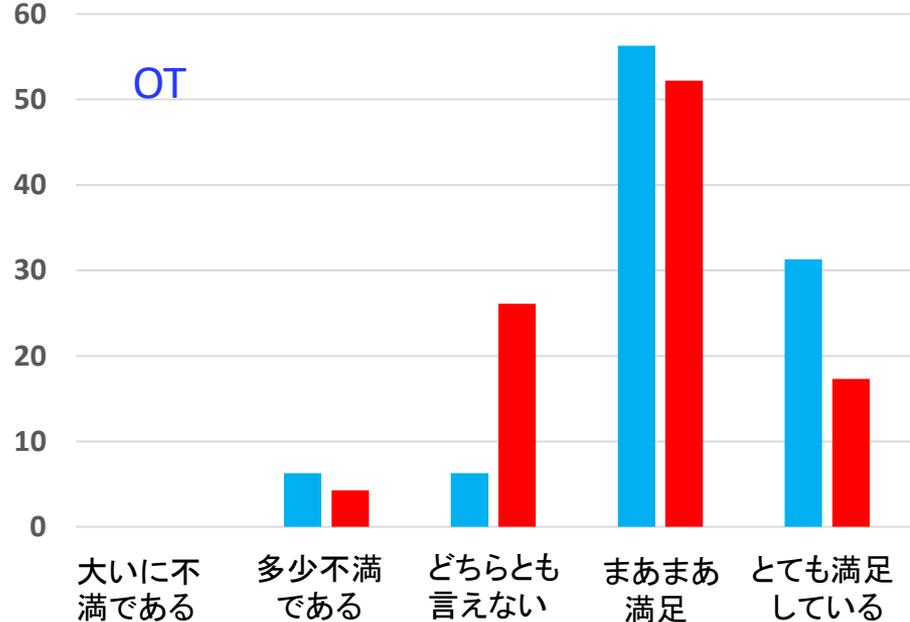
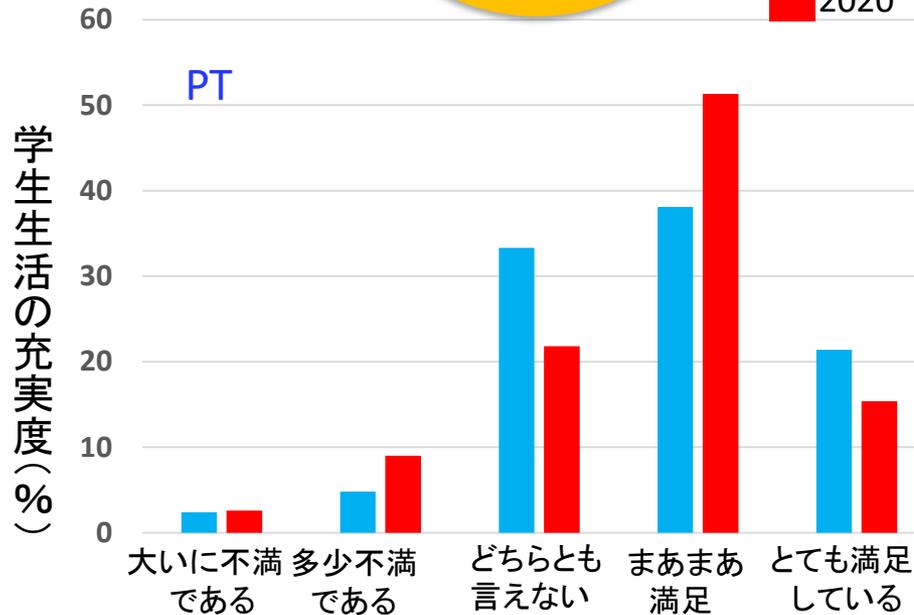
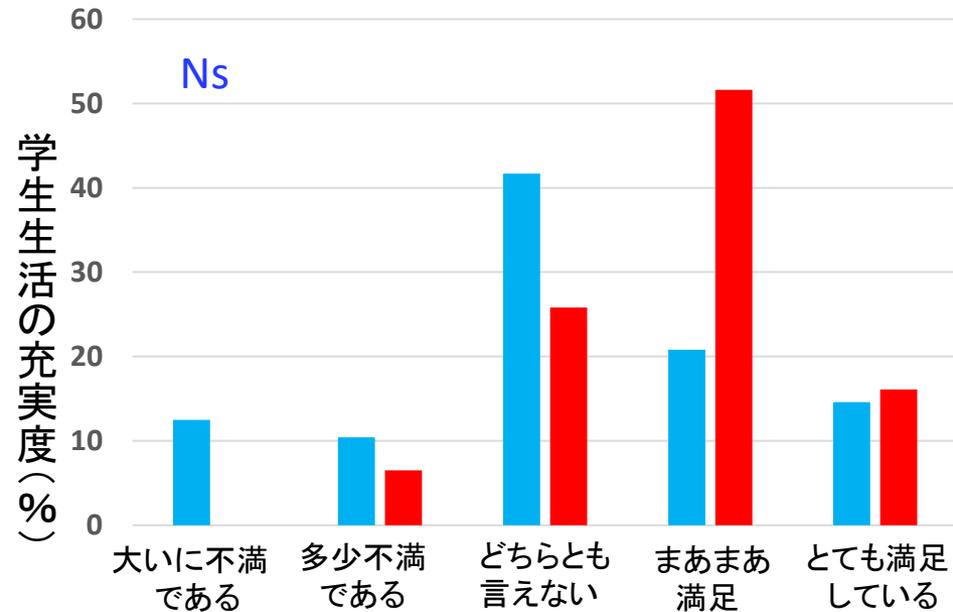
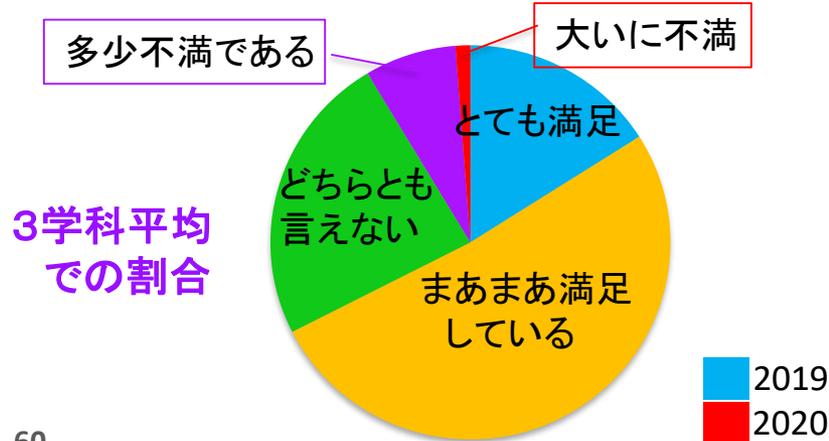
2019年度に比べ、2020年は看護学科学生の充実度に改善が認められた。そのため、3学科の学生生活の充実度は同じような傾向になっていると考えられる。

Q15. 学生生活に充実感を感じない原因は何か



充実感を感じない学生にとって、看護学科では「経済的な面」、「交友関係」、「レポート・課題の多さ」などが、理学では「学習内容に意欲的になれないこと」が、作業では「授業内容が理解出来ない焦り」が主な原因と考えられる。ただ、2019度と比べ、充実感を持ってない学生総数は1/5ほどに減少している。

Q16.入学後の現在の気持ち(満足度)はどうか



2020年では、看護学科学学生の満足度が2019年に比べて改善したため、3学科の学生満足度は同じような傾向を持つようになったと考えられる。

Q17.本校入学を後輩や知人に勧めるか

絶対に勧めたくない

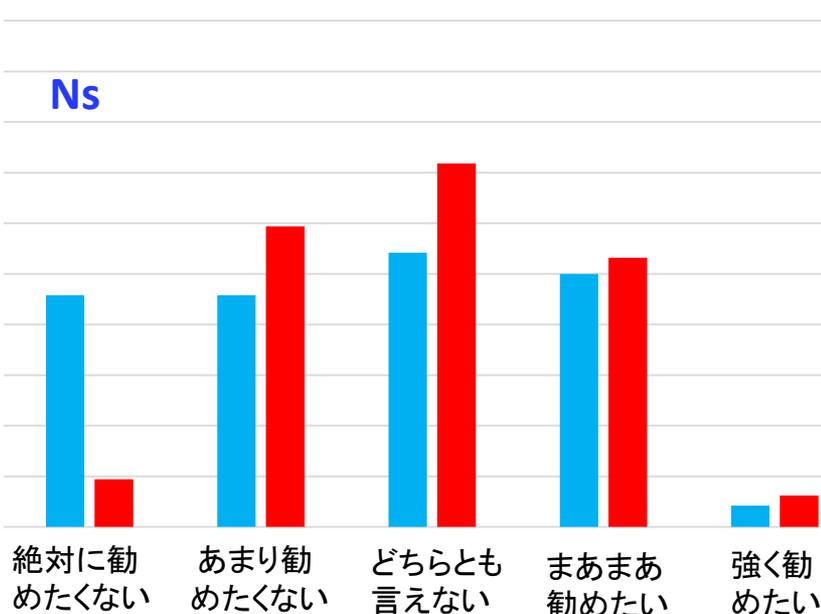
強く勧めたい

3学科平均での割合



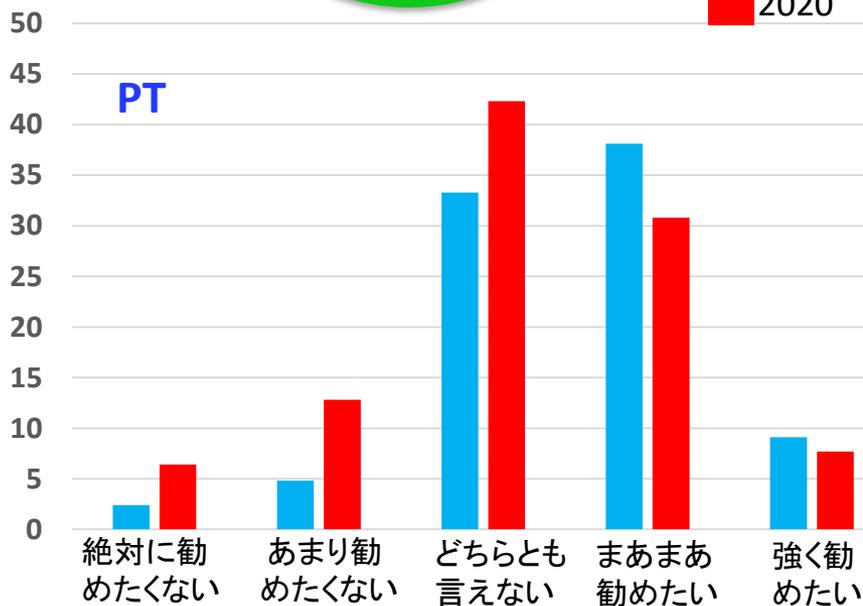
推薦に対する思いの強さ(%)

Ns

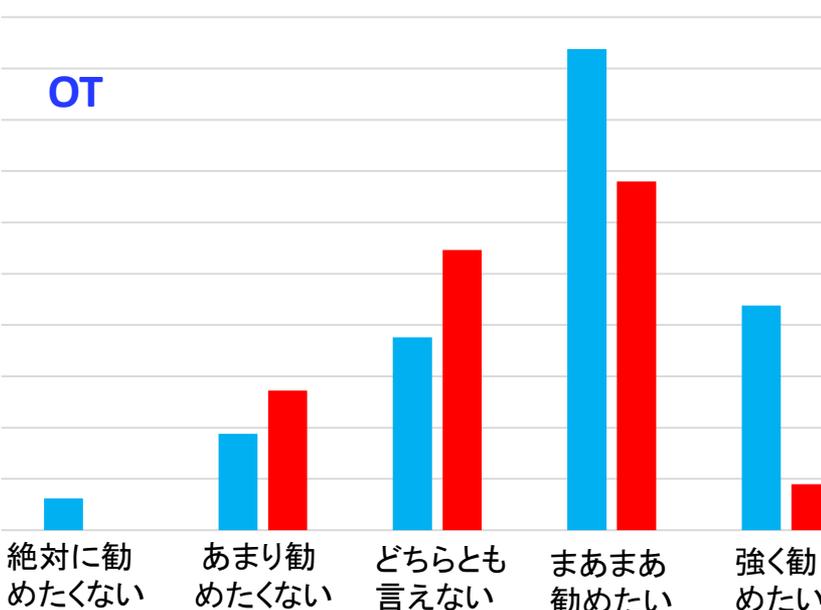


推薦に対する思いの強さ(%)

PT



OT



学科によってグラフのパターンには差異があり、2019と2020の比較ではコロナ禍のマイナス面がやや影響していることが考えられる。しかし、2020年度では看護学科で「絶対に勧めたくない」とする意見が少なくなったところは注目したい。まだまだ、本校を学生にとってより魅力あるものに改善する素地があると期待される。

Q18. 教育（臨床実習も含む）で望ましいと感じられたことはどんなことですか。

理学療法学科:先生と学生の信頼関係がとても良い状況である為、学生にはとても良い学習環境になっている。具体的には、熱意のある授業や教員が多かった。質問対応が丁寧で理解がスムーズだった。サークルや先輩方の交流が実習に役立っている。臨床実習は有意義だった。オンライン授業やゼミ学習でもとても意欲的になれた。

作業療法学科:先生方が丁寧な教育をしてくれるため、分かりやすいと感じる。質問対応もほとんど対応してくれる。座学だけでなく実技も入れてもらえ、授業が飽きなかった。グループ学習などでゆっくり議論する時間をもらえる為、充実した授業となっていた。先生方や先輩の経験を聞く機会があり、将来に対して有意義と感じた。

看護学科:コロナ禍でも先生方に様々な工夫をして頂き、わかりやすい授業になっている。国試対策はとても為になった。わからないことがあれば、寄り添ってくれた先生に感謝している。毎日の勉強会も役に立っていた。体育で身体を動かす授業があり気分転換になった。医大の先生方の講義もよかった。実習では、患者の立場を考えた看護を学ぶことができた。学校や学科の先生から良い学校を作ろうと考えて下さる雰囲気を感じられた。

Q19-1. 具体的なコメントに対する回答

2020年度を振り返ることができるタイミングで、在学生の皆様にはアンケート調査にご協力して頂きました。具体的なコメントの詳細については膨大であり全ては公表できませんが、本校としてはそれらの内容を真摯に受け止め、これから誠実に対応していきたいと存じます。ここでは、主なコメントに大して回答させていただきます。今後も何かお気づきのことがありましたら、いつでもお意見・ご要望を校長までお届け頂ければ幸いです。

1) WiFiモデムの設置: Web授業の根本である通信環境を整備しました。そのため、新たな光ケーブルを設置し、全館WiFiの利用ができるように対応致しました。

2) コロナ対策: ZOOMを活用したオンライン授業を実施するため、常設スタジオを3室設置すると共に、臨時的にさらに3～4室設置しました。その他、学内外からホストとしてWeb授業も一部の授業で対応してまいりました。本校独自の感染対策マニュアルや行動指針を作成し、その上で感染防止のための啓発教育を励行することで、感染防止やクラスター化阻止をはかってきました。その時々に応じて、登校禁止や分散登校などの対応してきました。

3) 図書室・学習室・教卓: パーテーション(ビニール製やアクリル板)を置き、飛沫防止対策を施し、対面授業を行ってきました。アルコールや次亜塩素酸ナトリウムなどの消毒器具を学内全域に配置しました。マスク他ゴム手袋なども実習用にストックいたしました。

4) コロナ禍の実習費返還: コロナ禍では外部実習(隣地実習や臨床実習)ができませんでした。その代わりに、学内実習に相当する実習を行ってまいりました。急なことで準備が必ずしも十分ではありませんでしたが、臨床現場で働く専門家を講師として招いたり、実習に必要な備品類を揃えました。また、今年度も代替実習を行うこともあるかと思いますので、そのないようの充実をはかる所存です。実習費は毎年納入して頂いたものをプールして実習が多い学年でより多く支出することになります。それゆえ、納入していただきました実習費は実習に必要な備品、消耗品、施設への謝金等として有効に使わせて頂いております。

5) 教職員の対応: 教員同士が仲が悪いとか、学生に対する教職員の対応によって傷つけられたというコメントがありました。特に教職員の対応が皆さんに不愉快な気持ちにってしまったことには、校長として心から申し訳なく思っております。この場を借りてお詫びいたします。ただ、どのような状況でどういう対応がなされたかはわかりませんが、理事長・校長はいつでも皆さんからのお話を伺いたいと存じます。また、教職員に対する接遇研修をいたします。さらに、なんでも相談室を設置し、学校生活におけるあらゆる問題の解決をはかりたいと思っております。ただ、信じていただきたいことは、私は、「本校教職員は、皆さんの側に立った対応を心がけている」と信じております。学生の皆さんを 激励したいとする思いが時には、誤解を招く結果になったこともあるのではないかと存じます。とにかく、私達教職員は、皆さんが将来医療の現場で活躍されることを願っております。このことには、嘘偽りはありません。

6) 国試対策: 今回国試合格率が低下してしまったことを極めて重大なこととして受け止めております。どのような原因がこのような結果を招いたか、来年までにどのような対応をすべきかを会議で話し合う中で改善策を進めております。何人かの意見として、早目に国試対策を初めて欲しいというものもありました。このコメントも含め、国試勉強に対する学習サポートを実施していきたいと考えます。また、快適な環境下で自学自習が行えるように、特に夜間の学習環境の改善行っていくつもりです。

7) 再試代、カリキュラム予定、設備: 再試代が高すぎるとか、カリキュラムの日程提示が遅すぎるなどのコメントが出されています。再試を受けなくていいようにしっかり勉強してほしいとする意図で定めた価格でしたが、不満が多いようです。この件については、検討させていただきます。カリキュラム日程の公表ですが、コロナ禍ではより変更する要素が増えてしまうので、ご容赦頂きたいと考えています。ただ、コロナ禍が収束した後は、できるだけ早目に決定できるようにしたいと思います。また、看護学科3階のロッカーや男子トイレ設置に関しては、検討させていただきます。看護学科の評価基準については、改善のための話し合いを行っております。